



## 2019年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2018年8月3日

上場会社名 株式会社 名村造船所

上場取引所 東

コード番号 7014 URL <http://www.namura.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 名村 建介

問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員経營業務本部長 (氏名) 池邊 吉博

TEL 06-6543-3561

四半期報告書提出予定日 2018年8月6日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満四捨五入)

### 1. 2019年3月期第1四半期の連結業績(2018年4月1日～2018年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	28,239	24.3	957		1,434		1,247	
2018年3月期第1四半期	37,288	4.4	1,619		1,522		1,811	

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 400百万円 ( %) 2018年3月期第1四半期 2,046百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第1四半期	18.07	17.94
2018年3月期第1四半期	26.25	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第1四半期	191,951	76,444	39.5
2018年3月期	195,445	76,391	38.8

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 75,836百万円 2018年3月期 75,761百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期		5.00		5.00	10.00
2019年3月期					
2019年3月期(予想)		5.00		5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2019年3月期の連結業績予想(2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	69,000	2.1	5,000		5,000		5,000		72.46
通期	134,000	0.7	7,000		7,000		7,500		108.69

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年3月期1Q	69,099,551 株	2018年3月期	69,038,551 株
期末自己株式数	2019年3月期1Q	33,470 株	2018年3月期	33,437 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年3月期1Q	69,029,349 株	2018年3月期1Q	69,006,263 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報等) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用情勢の改善等、緩やかな回復基調が続いているものの、米国の自国主義的な政策や中国経済の減速懸念など、先行きは不透明な状況にあります。

日本造船工業会によりますと、2018年1月から3月までの世界新造船竣工量は1,811万総トン（前年同期比19.9%減）、新造船受注量は1,372万総トン（前年同期比158.8%増）と記録的な低水準であった前年同期を大幅に上回ったものの依然として新造船受注量が竣工量を下回る状況が続いております。中国・韓国では手持工事量不足で経営危機に陥った新興造船所の撤退が進む一方で、国営造船所や大手造船所に対する政府の支援策により供給能力の調整が進まないことが懸念されますが、造船用鋼材の急激な値上げによる採算悪化により両国の受注ペースも鈍化してきており、撒積運搬船を中心に船腹需給の改善がさらに進むものと思われれます。

当第1四半期連結累計期間の業績は、中核である新造船事業において佐世保重工業株式会社の工程を正常化させるために同社の新造船操業計画量を大幅に下方修正させたことやグループ各社の売上のほとんどが低船価船であったこと、修繕船事業において大型の艦艇修繕工事が減少したことにより、売上高は28,239百万円（前年同期比24.3%減）となりました。損益面では、新造船事業において、為替が前連結会計年度末に比べて3円弱の円安に振れたことやグループ全体の新造船の操業調整に伴い新規受注を抑制したことにより工事損失引当金が前連結会計年度比で4,655百万円減少したことが大きく影響し、営業利益は957百万円（前年同期は1,619百万円の営業損失）となり、経常利益は営業外収益として為替差益計上があったことから1,434百万円（前年同期は1,522百万円の経常損失）となりました。その結果、当第1四半期連結累計期間の税金等調整前四半期純利益は1,425百万円（前年同期は1,529百万円の純損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,247百万円（前年同期は1,811百万円の純損失）となりました。

主力の新造船事業は、売上の対象となる隻数・船型・船価は四半期毎に異なります。また、資機材価格や為替などの大きな変動要因があり、それに伴って採算も変動いたします。工事損失引当金額につきましても、受注残全船を対象に四半期毎の洗い替えによる増減に加え、新規受注に伴う新たな計上もあり得ます。これらの事情もあって第1四半期業績と年度業績とは必ずしも連動いたしません。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### 新造船事業

受注から完工まで1年を超える新造船事業では工事進行基準を採用しており、当第1四半期連結累計期間の売上高は22,081百万円（前年同期比14.7%減）、営業利益は868百万円（前年同期は2,399百万円の営業損失）となりました。

当第1四半期連結累計期間におきましては、大型鉱石運搬船1隻、中型油送船2隻、中型撒積運搬船1隻、ハンディ型撒積運搬船2隻の合計6隻を完工し、大型撒積運搬船1隻を受注した結果、受注残高は221,099百万円（前年同期比16.3%減）となりました。

当期間におきましては、前連結会計年度の多額の損失要因の一つである佐世保重工業株式会社の工程混乱解決をグループの最優先課題として取り組んだ結果、混乱は収束に向かいつつあります。

新造船価は緩やかな上昇傾向にありますが厳しい事業環境は続くものと予想され、グループ全体として戦略的な商品開発と受注活動を継続し、現行操業度を維持できる安定的な受注残の確保に努めてまいります。また、適正な操業体制と工程管理によりコスト競争力と生産性、技術開発力の向上を図るとともに、品質のさらなる向上により顧客満足度の改善に努めてまいります。

当第1四半期連結累計期間における売上計上の米ドル額は201百万米ドルで、その平均レートは1米ドル当たり108円35銭であります。

#### 修繕船事業

主として佐世保重工業株式会社および函館どつく株式会社が担う修繕船事業におきましては、艦艇工事を主力としつつ立地特性と技術力を生かした官庁船、一般商船、特殊船の修繕工事に積極的に取り組んでおります。当第1四半期連結累計期間は、函館どつく株式会社における大型の艦艇修繕工事の完工があった前年同期に比べて売上高は1,653百万円（前年同期比74.0%減）にとどまり、営業利益は147百万円（前年同期比74.5%減）となりました。修繕船事業は期間による売上の山谷が激しく、操業の平準化が課題であります。

なお、当第1四半期連結会計期間末の受注残高は4,499百万円（前年同期比12.6%増）であります。

#### 機械事業

佐世保重工業株式会社が舶用機器、オリイメック株式会社が産業機械を主力商品とする機械事業につきましては、産業機械分野の主要顧客である自動車産業や半導体産業の設備投資が堅調に推移し、当第1四半期連結累計期間の売上高は2,945百万円（前年同期比8.3%増）となりましたものの、損益面につきましては、船舶用機器分野において販売単価が減少したことなどもあり349百万円の営業利益（前年同期比6.7%減）となりました。

産業機械分野が依然として堅調なこともあり、当第1四半期連結会計期間末の受注残高は6,603百万円（前年同期比24.1%増）であります。

#### 鉄構陸機事業

当第1四半期連結累計期間の売上高は413百万円（前年同期比51.2%減）となり、損益面につきましては22百万円の営業損失（前年同期29百万円の営業損失）となりました。熾烈な受注競争が続いておりますが、受注力の強化を図り、通期の黒字化に努めてまいります。

なお、当第1四半期連結会計期間末の受注残高は5,208百万円（前年同期比3.8%増）であります。

#### その他事業

当第1四半期連結累計期間の売上高は1,147百万円（前年同期比21.9%減）となり、損益面につきましては137百万円の営業利益（前年同期比44.9%減）となりました。

なお、当第1四半期連結会計期間末の受注残高は867百万円（前年同期比103.9%増）であります。

### (2) 財政状態に関する説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

#### 流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、新造船事業において前期末までに計上済みの売掛金が工事完成に伴って減少したこと等により、前連結会計年度末比3,730百万円減少し、134,158百万円となりました。

#### 固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は、リース債権の増加に伴い投資その他の資産が増加したこと等により、前連結会計年度末比236百万円増加し、57,793百万円となりました。

#### 流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、新造船事業において、為替が前連結会計年度末に比べて3円弱の円安に振れたことやグループ全体の新造船の操業調整に伴い新規受注を抑制したことに伴い、工事損失引当金が減少したこと等により、前連結会計年度末比3,805百万円減少し、91,509百万円となりました。

#### 固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は、子会社において設備投資等を目的とした借り入れを行い、長期借入金が増加したこと等により、前連結会計年度末比258百万円増加し、23,998百万円となりました。

#### 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等に伴い、利益剰余金が増加したこと等により、前連結会計年度末比53百万円増加し、76,444百万円となりました。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の第2四半期連結累計期間および通期の連結業績予想に関する事項につきましては、現時点においては2018年5月11日に公表いたしました連結業績予想を据え置いております。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	77,489	76,090
受取手形及び売掛金	46,556	40,397
商品及び製品	1,961	1,929
仕掛品	4,898	6,937
原材料及び貯蔵品	2,221	2,270
その他	4,763	6,535
流動資産合計	137,888	134,158
固定資産		
有形固定資産	43,291	42,661
無形固定資産	455	522
投資その他の資産	13,811	14,610
固定資産合計	57,557	57,793
資産合計	195,445	191,951
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,023	20,815
電子記録債務	11,893	11,663
短期借入金	5,733	6,101
未払法人税等	472	264
前受金	22,664	23,218
工事損失引当金	23,691	19,036
保証工事引当金	2,940	2,880
その他の引当金	25	25
その他	5,873	7,507
流動負債合計	95,314	91,509
固定負債		
長期借入金	13,388	13,852
その他の引当金	610	549
退職給付に係る負債	5,889	5,962
その他	3,853	3,635
固定負債合計	23,740	23,998
負債合計	119,054	115,507

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,112	8,135
資本剰余金	33,911	33,934
利益剰余金	32,893	33,795
自己株式	△16	△16
株主資本合計	74,900	75,848
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,207	652
繰延ヘッジ損益	59	△195
為替換算調整勘定	701	561
退職給付に係る調整累計額	△1,106	△1,030
その他の包括利益累計額合計	861	△12
新株予約権	285	239
非支配株主持分	345	369
純資産合計	76,391	76,444
負債純資産合計	195,445	191,951

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
売上高	37,288	28,239
売上原価	37,002	25,188
売上総利益	286	3,051
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	825	811
その他	1,080	1,283
販売費及び一般管理費合計	1,905	2,094
営業利益又は営業損失(△)	△1,619	957
営業外収益		
受取利息	20	31
受取配当金	113	126
為替差益	20	384
その他	94	57
営業外収益合計	247	598
営業外費用		
支払利息	80	87
固定資産除売却損	56	24
その他	14	10
営業外費用合計	150	121
経常利益又は経常損失(△)	△1,522	1,434
特別損失		
投資有価証券評価損	0	1
減損損失	7	8
特別損失合計	7	9
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,529	1,425
法人税、住民税及び事業税	325	190
法人税等調整額	△49	△38
法人税等合計	276	152
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,805	1,273
非支配株主に帰属する四半期純利益	6	26
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,811	1,247



四半期連結包括利益計算書  
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,805	1,273
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△67	△555
繰延ヘッジ損益	△142	△254
為替換算調整勘定	△94	△141
退職給付に係る調整額	62	77
その他の包括利益合計	△241	△873
四半期包括利益	△2,046	400
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△2,053	374
非支配株主に係る四半期包括利益	7	26

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

前連結会計年度末日と比較して著しい変動が認められないため、記載しておりません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	新造船	修繕船	機械	鉄構陸機	その他			
売上高								
外部顧客への売上高	25,896	6,358	2,719	846	1,469	37,288	—	37,288
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	263	263	△263	—
計	25,896	6,358	2,719	846	1,732	37,551	△263	37,288
セグメント利益又は セグメント損失(△)	△2,399	576	375	△29	248	△1,229	△390	△1,619

(注) 1 セグメント利益の調整額△390百万円には、セグメント間取引消去△12百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△378百万円が含まれております。全社費用は、主に当社の総務部、経営管理部等の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)2
	新造船	修繕船	機械	鉄構陸機	その他			
売上高								
外部顧客への売上高	22,081	1,653	2,945	413	1,147	28,239	—	28,239
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	263	263	△263	—
計	22,081	1,653	2,945	413	1,410	28,502	△263	28,239
セグメント利益又は セグメント損失(△)	868	147	349	△22	137	1,479	△522	957

(注) 1 セグメント利益の調整額△522百万円には、セグメント間取引消去△11百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△511百万円が含まれております。全社費用は、主に当社の総務部、経営管理部等の管理部門に係る費用であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。